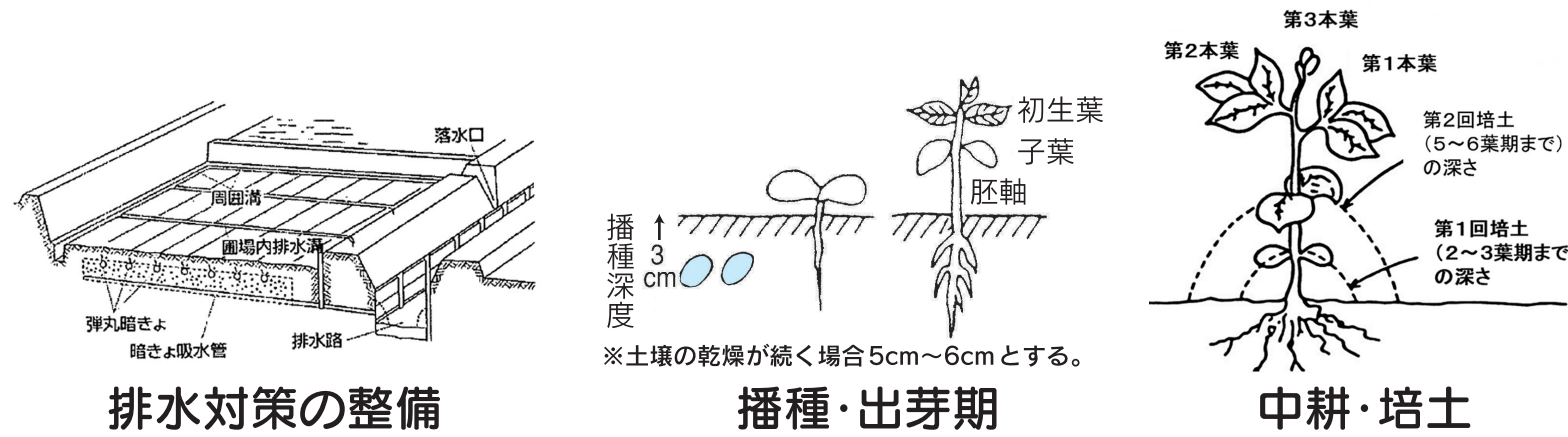


増収と品質向上のポイント

- 土壌の酸度矯正(石灰質資材を投入! 目標pH6.0~6.5)
- 排水対策の徹底(周囲溝を早めに施工!)
- 中耕・培土の徹底(生育促進と倒伏防止のため実施!)
- 麦ワラのすき込み(地力増進)
- 適期播種(7月10~15日を目標!)
- 除草と病害虫防除の徹底



時期	月	6			7			8			9			10			11		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業	排水対策の整備																		
	土壌改良																		
主な作業	病害子虫の防除準備																		
	耕起・整地																		
主な作業	除草剤散布																		
	中耕・培土 1回目																		
主な作業	中耕・培土 2回目																		
	開花期 (ハスモンヨトウ) 病害虫防除 ①																		
主な作業	病害虫防除 ②																		
	病害虫防除 ③																		
主な作業	青立株採取																		
	成熟期 収穫																		
作業内容 (注意点)	安全を確認して、刈株や土を取り除く。																		
	大豆の青立ち株や雑草は刈取前に抜き取る																		

品種特性表

(7月10日播き)

品種名	開花期	成熟期	耐倒伏性	10a当り子実重	百粒重
フクユタカ	8月19日	11月2日	中	339kg	30.9g

※引用元:福岡県農林業総合試験場データ

種子消毒

対象病害等	農薬名	使用量
ハト、紫斑病	キヒゲンR-2フロアブル	種子5kgに対し100mlをまぶす

播種時期と栽植密度

品種名	フクユタカ (1株当り2粒)	
播種期	7月10~20日 (適期播)	7月21日以降~ (遅播)
条間 (cm)	65cm	
株間 (cm)	25~20cm	20~15cm
10a当り播種量 (kg)	4.0~5.0kg	5.0~7.0kg

※圃場が乾燥していたら5~6cmの深播きをする。通常は3cm程度とする。
※耕起後すぐに(土壌が湿っているうちに)播種する。

施肥基準

(kg/10a)

大豆作付条件	基肥		成分量			備考
	肥料名	施肥量	窒素	りん酸	カリ	
pH矯正	炭酸苦土石灰	100	—	—	—	早播は窒素分は施用しない。
適期播	PK化成40号	30	—	6.0	6.0	
連作田又は遅播	ちくごのめくみ444	20	2.8	2.8	2.8	

※大豆種子は肥料焼けし易いので、播種と施肥位置が重ならないように注意する。

病害虫防除基準

(10a当たり)

液剤	時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	希釈水量
	8月下旬	ハスモンヨトウ	ノーマルト乳剤	2,000倍	100~300ℓ
	9月中旬	ハスモンヨトウ	トルネードエースDF	2,000倍	三剤混合 100~300ℓ
		カメムシ類	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	
		紫斑病	トップジンM水和剤	1,000~1,500倍	
	10月上旬	カメムシ類	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	100~300ℓ

(10a当たり)

粉剤	時期	対象病害虫	薬剤名	散布量
	8月下旬	ハスモンヨトウ	トレボン粉剤DL	4kg
	9月中旬	ハスモンヨトウ	トレボン粉剤DL	4kg
		カメムシ類	アルバリン粉剤DL	3kg
		紫斑病	トップジンM粉剤DL	4kg
	10月上旬	カメムシ類	アルバリン粉剤DL	3kg

※粉剤は液剤より効果が劣る場合があるので、できる限り液剤防除を行ってください。粉剤で防除する場合は、ハスモンヨトウ幼虫が中令(約2cm)以下の時期から防除を始め、7~10日間隔で防除しないと抑えきれない場合があります。

除草剤基準

使用時期	除草剤名	10a当り使用量	希釈水量	留意点
耕起前	ラウンドアップマックスロード	200~500ml	50~100ℓ	播種前雑草が多い場合・耕起前又は出芽前まで
播種直後~出芽前まで	ラクサー乳剤	400~800ml	100ℓ	ホソアオゲイトウに効果がある
	ラクサー粒剤	4~8kg	—	覆土は2~3cmとし、よく整地して鎮圧する。二重散布にならないように均一に散布する。
雑草生育期	パワーガイザー液剤	300ml	100ℓ	ホオズキ類に効果がある。またアサガオ対策。一時的に黄化などの薬害が生じることがある。
	ポルトフロアブル	200~300ml	100ℓ	イネ科雑草の3~10葉期 収穫30日前まで
	大豆バサグラン液剤	100~150ml	100ℓ	イネ科を除く一年生雑草。大豆2葉期~開花前(雑草の生育初期~6葉期) 但し収穫45日前まで
	アタックショット乳剤	30~50ml	100ℓ	アサガオ対策。本葉2葉期~開花前、但し収穫45日前まで。大豆に褐変、白化などの薬害が生じることがある。

※中耕、培土による耕作的防除も併せて行う。
※アサガオ対策にはラウンドアップマックスロード(播種前にアサガオが多い場合)→パワーガイザー液剤(大豆3葉期まで)→中耕・培土→アタックショット乳剤(開花前まで)などの体系処理が有効。

*農薬購入の際は、印鑑が必要です。

○天候・気象状況により適期管理を心がけましょう。 ○農薬のラベルを確認して散布しましょう。 ○農薬の近接作物、住宅地への飛散を防止しましょう。 ○作業日誌・生産工程管理チェックシートの記帳を必ず行いましょう。

この資料は、令和6年6月1日時点の農薬の登録状況に基づいて作成しています。農薬の登録内容は随時変更されます。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。